

第2回 鈴鹿亀山道路有識者委員会 議事録

1. 日時・場所

平成25年12月16日(月)10:00~12:15
(財)三重県地方自治労働文化センター 大会議室

2. 委員 (五十音順・敬称略)

委員長	名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授	松本 幸正
委員	三重大学人文学部法律経済学科教授	朝日 幸代
	三重短期大学生活科学科教授	岩田 俊二
	名古屋工業大学都市社会工学科准教授	増田 理子
	パブリック・ハーツ株式会社代表取締役	水谷 香織

3. 議 事

- (1)これまでの取り組みと第2回有識者委員会の審議対象
- (2)課題の共有と道路計画の必要性の確認
- (3)複数案の設定と評価項目の設定
- (4)第2回意見聴取(案)
- (5)鈴鹿亀山道路の計画検討に関するアンケート調査票

4. 議 事 録

○委員会規約について

- ・ 規約第8条3項では非公開とする場合を規定しているが、今回の会議の内容は、非公開に該当しないため公開とし、事務局にて議事概要を作成し、委員の確認を得た後にホームページ等で公表する。

(1)これまでの取り組みと第2回有識者委員会の審議対象

(2)課題の共有と道路計画の必要性の確認

- ・ 輸送時間の短縮による産業面での高付加価値化について、定量的に経済効果として算出する手法もある。
- ・ これからの都市計画では人口減少を前提とし、関連する計画との整合性(時間軸上の将来像)を考慮することが重要であると考えます。
- ・ 自然環境のネットワーク性(連続性)の観点から、渡河部では河川環境に配慮することが望まれる。
- ・ 渋滞解消は自然環境面(河川環境)でも好影響を及ぼす。
- ・ 産業面からの必要性を強調するなど必要性について、シンプルに明確に示すことが理解を得るためには重要である。
- ・ 産業面での必要性の検証として、費用対効果等を企業ヒアリング等で導き出せないか。
- ・ 必要ないという住民からの意見も公開するという条件で、課題の共有と道路計画の必要性について、妥当と判断する。

(3)複数案の設定と評価項目の設定

- ・ 整備効果の算出にあたっては、利用する人がどれくらいか(「台数×短縮時間」など)の考えが重要である。
- ・ 整備効果について、算出の前提条件等を明確にする必要がある。
- ・ ルート帯の比較表において、環境に関してもう少し定量的な検討内容を記載できないか検討願う。
- ・ 複数案の設定及び評価項目について、妥当と判断する。

(4)第2回意見聴取(案)

- ・ 合意形成のプロセスについては、前回の有識者委員会の議論が踏まえられたものとなっており、現時点では問題はないが、今後も説明責任を果たすプロセスを継続することが必要である。

(5)鈴鹿亀山道路の計画検討に関するアンケート調査票

- ・ アンケートに「地元でしか知りえない情報」を収集することができるよう工夫することが望ましい。
- ・ インターネットを使わない人もいるため、鈴鹿亀山地域の人に対しては、紙媒体での配布場所の検討をすべきである。
- ・ アンケート調査票は、作り手の思いよりも回答しやすいかどうか重要であり、原案の改善に向けて工夫する必要がある。また、調査の目的を明確にすることも重要である。
- ・ アンケートについては各委員に確認を行って確定するものとする。

以上

